

『もっと！！本野通信』 No.134

諫早市立本野小学校長 永 井 洋



県民祈りの日

あの日から 81 年目の夏を迎えました。当時のことを記憶されている方も、激減している今、核兵器のもたらす悲しみや、戦争の愚かさをどのようにして伝え、継承していくかが課題となっています。

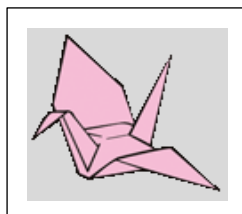
本校では、平和学習を日常的に継続して行うことができないかという視点から、教育週間（6 月）での学び、県民祈りの日での学び、4 年生時の資料館での学び、人権週間での学びなど、年間を通して平和について考える時間を作っているところです。

今日の登校日では、「平和である」ということの喜びが分かるように話を構成しました。平和がおびやかされると、「わたしたちが今送っている、何気ない日常のほとんどが奪われていく」ということを次の世代へ語り継ぐことの大切さを改めて感じました。登校してきた子どもたちは、平和祈念式典の様子を見ながら、黙とうをしました。

【数字から想像する戦争】

- ①約 5000～9000 万人
- ②約 300 万人
- ③約 14 万人
- ④約 7 万人

何の数だと思いますか？答えは裏面です。



夏休みも折り返しです

夏休みも残り半分です。宿題の進み具合などが気になるころですね。「宿題してる？」だけでなく、是非、テキストやノートを開いて、一緒にご覧になってください。

2 学期の主な予定（予定ですので変更になるものもあります）

【9 月】 1 日：始業式 3 日：授業参観・分会 作品展（4 日まで） 28・29 日：視力検査 【10 月】 7 日：修学旅行（8 日まで） 7 日：3 年社会科見学	13 日：4 年平和学習 22 日：小音会 27 日：小体連 【11 月】 4 日：4 年環境学習 15 日：150 周年記念式典 20 日：5 年社会科見学	【12 月】 1 日：人権集会 7 日：学力検査 24 日：終業式 
--	--	--

～校長室の窓から～

先月、末娘が続けている剣道の試合の応援で、日本武道館に出かけました。結果は、満足いくものではなかったようですが、学業と共に、小学生から続けていることに「がんばったじゃない」と声を掛けると、秋の最後の試合に向けて、仲間と一緒にチャレンジすると返ってきました。成長を感じたところでした。ただ、就職については、長崎には戻らずに、そのまま東京に残るということで、説得工作が実らずになんとも残念な結果になりました 🐱

試合後、会場を後にし、靖国神社や平和祈念館が近くにあったので、参拝したり、見学したりしました。「東京には東京の平和教育があるのだな」と感じたところです。

その後、空港に向かう途中で、長女夫婦と遅い昼ご飯を食べながら、来年の夏に家族で計画している、富士登山について打ち合わせをしました。「体重落とさないと大変な目にあうよ」とか、「助けないからね」など、辛辣な言葉を浴び、真剣に考え始めたところです。

短い時間でしたが、普段会えない娘二人、息子との時間を堪能し、長崎への帰路につきました。（妻は 3 泊、わたしは日帰り 🐱）

【数字から想像する戦争】

- ①全世界の第二次世界大戦で亡くなった方の数
- ②日本人の第二次世界大戦で亡くなった方の数
- ③広島に原子爆弾が投下された後、その年の 12 月までに亡くなった方の数
- ④長崎に原子爆弾が投下された後、その年の 12 月までに亡くなった方の数

※①に大きな幅がある理由は、戦時下の混乱の中で記録が散逸したことが大きな理由だそうです。

※③と④で大きな差があるのは、広島と長崎の地形の違いなど様々な要因が関係している。原子爆弾自体では長崎に投下された物の方が破壊力はあったようです。